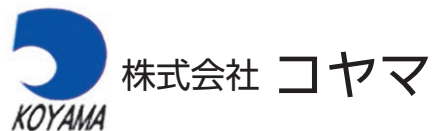


緊急通報システムで 地域の安心を守る



代表取締役 小山 輝雄
〒942-0255 上越市下五貫野開田136-15
TEL 025-520-3670 FAX 025-520-2227
https://koyama-j.com/

業 種：生活関連サービス業
資 本 金：1,200万円
事業内容：緊急通報システムの運営

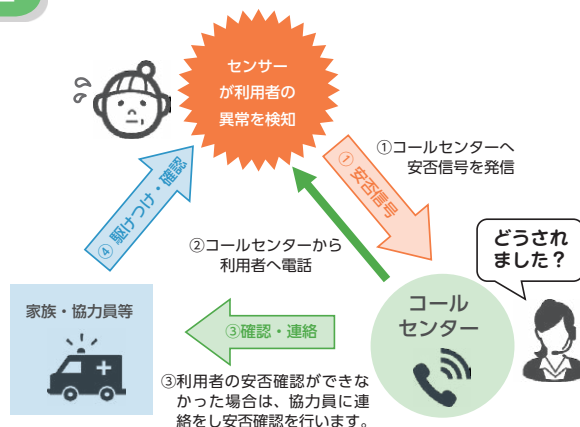
一人暮らしの高齢者を対象に、24時間体制で緊急通報装置とコールセンターの連携による見守りサービスを展開する(株)コヤマ。上越市を拠点に県内外にコールセンターを開設し、各自治体と連携して地域の高齢者の暮らしを支えている。

平成16年に緊急通報システムの運営を開始

同社は現社長が平成4年(1992年)に創業。当初は、建設用資材の販売などを行っていたが、知人の紹介で高齢者向けの緊急通報装置の設置を請け負った際に、単身高齢者の見守りサービスのニーズを認識し、平成16年(2004年)に同装置の製造とコールセンター開設による緊急通報システムの運営を始めた。

現在は、地元上越市をはじめ新潟市、見附市など自治体と提携し、地域住民向けにサービスを提供している。また、社長のトップセールスで福島県郡山市、神奈川県横須賀市など県外にも進出。同時に各地にコールセンターを開設している。

<安否センサーを使った見守りサービス>



センサーを使った安否見守機能が同社の売り

同社が運営する「緊急通報システム」は、緊急連絡機能と安否見守機能を有する。緊急連絡機能は、利用者が緊急ボタンを押すことでいつでもコールセンターに繋がることができる機能で、緊急通報システムの基本的な役割を担う。

安否見守機能は、人の動きを感知するセンサーが、一定時間反応がなく、異常な事態であると認識した場合にコールセンターに通知する機能で、緊急連絡機能を補完する。同機能は、病気やケガで動けなくなった場合の早期発見に役立つためニーズが高く、提供している企業も少ないため同社が特に力を入れる分野となっている。

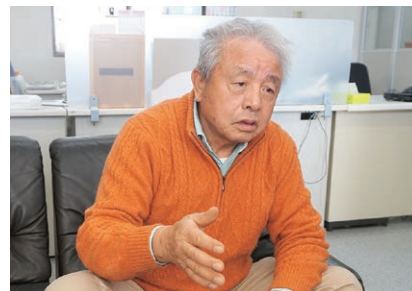


写真左：ハンズフリーで話すことができるレシーバー
写真右：人の動きを感知する安否センサー

地域の孤独死ゼロを目指して

サービス開始から15年が経ち、多くの契約先を抱えるようになった同社。これまでサービス利用者の「孤独死」はゼロとなっており、こうした実績が評価され、多くの自治体での導入につながっている。

小山社長は、「緊急連絡だけでなく、センサーを使った安否確認を実施していることが、当社の実績の支えになっている。今後は、民間の不動産管理業者と提携し、マンションなどでの孤独死防止に貢献したい」と語ってくれた。



▲民間の不動産管理業者との提携にも意欲をみせる小山輝雄社長